

プロフェッショナルとして生きる—— そのメリットや課題、心得は？

アクチュアリーからキャリアアップした経営者と、銀行出身の公認会計士が、自身の歩んできた道を振り返り、専門職を志す後輩たちへメッセージを贈る。

明治安田生命保険の根岸秋男社長と、日本公認会計士協会の関根愛子会長は、ともに早稲田大学理工学部で数学を専攻した同級生。そんな二人のトップ対談が2018年11月、同大で実現しました。異なる分野で専門性を突き詰めた二人の言葉の中から、今の時代に専門職を志すということの意味を探りました。

自分の専門性に 信頼や期待が集まる

根岸 当時の理工学部は9割が男子だっただけに、関根さんはかなり自立した闊達な印象。きっとキャリアウーマンになるんだろうなと思っていましたよ。

関根 男性社会の中で違和感なく生活してこられたのは、理工学部のおかげです（笑）。当時の女子学生は就職難でしたが、私は外資系銀行に採用してもらえました。でも男女雇用機会均等法ができる前でしたから、やはり外資でも女性の活躍の場は少ない。これは何か資格が必要だと思い、数字が実務に役立つ公認会計士の資格を取得しました。銀行は約3年で退職し、監査法人へ転職したんです。

根岸 僕は学生時代に学んだ数学を生かして社会の役に立ちたいと、専門職のアクチュアリーとして保険会社に入社しました。資格取得はその6年後。専門を極めたら、周りからの信頼度が高まり、その信頼が強みになって仕事を任せられる。部長や役員とも会話できる。しかもゼネ



いざという時は
早稲田の仲間が
心の支えに

日本公認会計士協会 会長 関根 愛子

1981年、早稲田大学理工学部卒業。外資系銀行を経て85年に青山監査法人入所。89年、公認会計士登録。2006年から16年までPwCあらた有限責任監査法人パートナー。日本公認会計士協会常務理事などを歴任し、16年に女性初の同協会会長就任。



ラリストへの転籍も可能。僕は希望して営業に挑戦し、今はこういう立場です。

関根 プロフェッショナルのメリットについては私も同感で、社会から一定の期待を得られるので、仕事やりやすいです。その分、大変な面もあるけれど、そこにやりがいも生まれます。とはいえ、監査法人に入社して30年後、残った同期は1割ほど。監査で学んだことを基盤に、一般企業へ移る選択肢もあるからでしょう。あと、専門職に男女の区別はなく、出産・育児後も復職しやすい。これも女性からすると大きなメリットですね。

専門領域は1本の「木」 大切なのは「森」を見ること

根岸 思えば学生時代は、サークル活動で得たことの方が大きかったかもしれない。専門領域ではどうしても内向きになりがちだけど、サークルではみんなで話し合って行動に移す。それが積極性とか主体性のような前向きな仕事へ取り組む姿勢につながった気がします。

実は麻雀もよくやった。予見や仮説が必要ところが企画想像力とか、今日というデザインシンキングを鍛えてくれたようで、経営者としては麻雀をやっておいてよかったなと（笑）。

関根 会計士にとっては、数学の論理的思考が非常に役立ちました。でも実は私も大学でバンドをやったり、英会話学校に通ったりと、学業以外にも色々手を

専門領域を深く見るだけでなく 多様な人とのコミュニケーションを

出していました。その中で、外国の方を含むさまざまなバックグラウンドをもつ人たちと出会えた収穫は大きかったです。**根岸** 多様な人と交流してコミュニケーション力を身につけることは、専門職の課題の一つですね。特に企業では、対人折衝能力が強く求められますから。

もう一つ、専門職が陥りやすいのは「木を見て森を見ず」。専門領域だけを深く見るばかりでなく、自分が組織全体の中でどんな機能を発揮していけるか、という見方・考え方も重要です。

関根 コミュニケーション力は、私も会計士に必要なスキルとして、第一に挙げています。すごくいい仕事をしているのに、伝え方が下手で損するケースもある。相手にわかるようにきちんと説明する能力は、最低限必要と考えています。

会計士の場合、守らなきゃいけない核の部分は時代を問わず不変だけれど、先ほど触れた社会からの期待は時代とともに

に変化している。その変化を見逃さずに応えていかなくてはなりません。

根岸 一方で、今やデータサイエンスやAIの時代。それらの活用は、アクチュアリーにとっても自分の作業を効率化するという意味で大事だと考えます。資格の勉強と合わせてデータサイエンスを学ぶかどうかについては、mustではないが、betterだと思いますね。

少し前に会計士の仕事はAIに取って代わられるという記事も出ていましたが、その辺りはどうお考えでしょう？

関根 私はAIが発達すれば、会計士は助かると考えています。膨大な情報の処理は、ITやAIにやらせる。でもテクノロジーに全部できるわけじゃない。人間の会計士はAIのさらに先に行く存在で、もっとテクニカルで難しい業務を担うことに価値があるんじゃないでしょうか。ただ、そこで私たちが難しい業務に偏りすぎでは、「木を見て森を見ず」になり

明治安田生命保険相互会社
取締役 代表執行役 社長

根岸 秋男

1981年、早稲田大学理工学部卒業、明治生命保険入社。87年、日本アクチュアリー会正会員に認定。94年、自ら営業職に転じ、営業所長、商品課長、支社長などを経て、2009年、執行役営業企画部長。その後、常務執行役などを務め、13年より現職。

今は
時代が専門職を
求めている



かねません。そこは気をつけないと。

無限の可能性を信じて 自分の道を突き進む

根岸 お客様ニーズが多様化・専門化している今は、時代が専門職を求めている。これから専門職を目指す皆さんには、一般企業の幅広い分野で活躍してもらいたいです。当社も専門職が達成感を味わえるようなチャンスの設け方や、評価・処遇を整えており、そのような企業は実際に増えている。専門職とうまく融合しないと、企業は生き残っていきませんから。

関根 私は、よく「専門をもったゼネラリストでありなさい」と言うんです。例えば会計士にも個性があり、その個性を仕事に生かしている。それと同様に自分の専門性を個性として持ちながら、さまざまな人とゼネラリストのように接する。こういう姿勢は、早稲田の校風にも合っているんじゃないかしら。

根岸 変わった人が多くて自由な早稲田の校風ですね（笑）。ただ、卒業してわかったのは、本当に幅広い分野に同窓生がたくさんいること。早稲田の縁だと話もしやすく、すごく助かっています。

関根 私もこれまでに心が折れそうになった時は、早稲田の仲間に相談に乗ってもらいました。いざという時は同胞が助けてくれるという心強さがありますね。

根岸 そんな学校で学生時代にしか味わえない体験をしつつ、皆さんには尖ってほしいですね。早稲田らしく自立して、自分の考えをもって、無限大の可能性を信じて、力強く前に進んでほしい。

関根 そうですね。自分自身を信じることは、プロフェッショナルを目指す上での入り口。若い頃の苦労は、振り返ると楽しい思い出になります。ぜひ思うように自分の人生を描いてください。